

## 鎌倉市図書館ビジョン（第 3 次鎌倉市図書館サービス計画 概要版）

### はじめに 鎌倉市図書館ビジョン策定の背景

鎌倉市図書館は、平成 12 年に「鎌倉市図書館サービス計画」を策定、平成 26 年に「第 2 次鎌倉市図書館サービス計画」を策定して、図書館サービスの充実に努めてきました。

この計画策定から 4 年が経過し、図書館を取り巻く社会情勢の変化や多様化・高度化する市民の要望にこたえるため、今回新たな指針として「第 3 次鎌倉市図書館サービス計画」を策定しますが、策定に先立ち、鎌倉市図書館の目指すべき姿を明確にすることが大切であると考え、第 3 次鎌倉市図書館サービス計画における鎌倉市図書館ビジョンを明示することにしました。

### 第 1 章 鎌倉市図書館ビジョンの構成

第 2 次鎌倉市図書館サービス計画における鎌倉市図書館ビジョンは、第 2 章の「鎌倉市図書館の基本方針」に記載されています。その中で、鎌倉市図書館の使命として「市民の知る「自由」を保障します。」「利用者の秘密を守ります。」を示し、また、サービス方針としては、「Ⅰ 図書館は生涯学習の拠点」、「Ⅱ 鎌倉ならではの図書館」、「Ⅲ 市民とともに創る図書館」を掲げています。

この第 2 次サービス計画のビジョンは、これからの鎌倉市図書館においても、堅持していくべきものですが、基礎的なサービスにかかる内容で漠然としており、目指すべき姿を表すためには市民や利用者の方には分かりにくいと考えました。そこで、改めて私たち鎌倉市図書館の使命について考えを整理し、鎌倉市図書館の現状やその課題を抽出し、課題に取り組む基本方針を明示することによって、今後 4 年間の目指すべき姿としました。

### 第 2 章 鎌倉市図書館の使命

猛スピードで移り変わる時代の中でも、図書館の基本は変わりません。多種多様な情報を収集、整理、保存、提供して、知る権利を守り、「いつでも、誰でも、どこでも」望む情報を得ることができる環境を保障することです。

鎌倉市は、武家文化の中心となった中世、信仰と遊山の場となった近世、別荘文化と鎌倉文士に代表される近現代と、独自で多彩な歴史を誇ります。その歴史と文化は責任を持って後世まで保存・継承されなければなりません。

また、鎌倉市図書館は、その出発点から市民に支えられてきた、市民とともに作りあげてきた図書館です。これまで「市民の身近に図書館を」という目標を掲げ、「地域館構想」をもとに、鎌倉の 5 地域に一館ずつ図書館を整備してきました。

これからも各図書館を「いちばんそばの情報センター」として充実させ、まちづくりと市民の暮らしと学びを応援します。鎌倉市図書館ネットワーク全体の力で、人々の知りたい気持ちに寄り添い応える組織であり続けます。

### 第3章 鎌倉市図書館の現状と課題

鎌倉市図書館は地域館構想のもと、各地域に1館ずつ、計5館で運営しています。利用状況は各館で大きな差はなく、地域の人が近くの図書館を利用していることが伺えます。県内同規模自治体と比較すると、登録率・市民一人当たり貸出冊数、資料保有数などは平均以上で、特に予約・リクエスト数が多いことが特徴です。平成 11 年 2 月からは、開館時間が午前 9 時から午後 5 時までであったところを、祝日を除く木、金は午後 7 時までと拡大しました。平成 28 年 11 月には、鎌倉市中央図書館長の諮問機関である鎌倉市図書館協議会から、「正規職員と非常勤職員との直営体制での効率的な運営を図ること」や「開館時間の延長などによるサービスの向上」について答申を受けました。そこで、平成 29 年及び平成 30 年度には開館時間や休館日の変更の試行を行い、より地域の利用実態に合った、利用しやすい図書館を探っているところですが、現在の状況では以下のような課題を抱えています。

#### ア. 利用者ニーズへの対応

これまで利用者のニーズを把握するため、利用者アンケートを実施してきましたが、高校生などを中心に夜間開館を求める声が強くなっていきます。図書館の開館時間は、平成 11 年以降変更は行ってきませんでした。厳しい財政状況の下、職員に過度な負担をかけない、持続可能な範囲で、経費をかけずに開館時間の延長等のサービス改善に取り組み、利用者ニーズに応えていく工夫が必要です。

#### イ. 施設の老朽化

昭和 49 年に開館した中央図書館をはじめ、腰越図書館を除く大船・深沢・玉縄図書館は築 30 年を越え、老朽化、狭隘さが目立っています。老朽化した地域の公共施設を学校に集約化、複合化する鎌倉市公共施設再編計画や、市庁舎の移転、その跡地利用を含めた鎌倉市公的不動産利活用方針などを踏まえ、今後の変化をにらみながら、利用実態に見合った十分なスペースの確保と、利用者にとって快適な空間を目指す必要があります。

#### ウ. 資料費の確保

利用者の要望で最も多いのが資料の充実です。市民のニーズは年々範囲が広がり、また高度化しています。全国同規模自治体と比較しても、資料の予約・リクエスト数は上位に入りますが、資料購入費は減少傾向にあり、県内相互貸借への依存が目立ちます。今後、厳しい財政状況の下、資料購入費を維持・充実させていくためには、図書館振興基金の活用等の新たな財源の確保策の検討が必要です。また、鎌倉という土地柄から郷土

資料の体系的収集が求められますが、応えられていません。

#### エ. 図書館を利用しにくい方へのサービス

障害者差別解消法の成立で、これまで以上に設備面、識字面でのバリアフリー化に取り組むことが必要とされています。

また、日本語を母語としない方に向けて、英語以外の言語の資料の収集が求められています。

図書館利用の割合が低い地域への図書館利用率を上げる取組は実施できていません。

#### オ. 情報通信技術の進展への対応

いまや情報通信機器の保有率は国民の9割を越え、インターネットは日々の生活に欠かせないものとなっています。図書館のサービスも、ホームページからの予約やリクエスト、館内の検索機など多くはインターネットを経由して行われるようになりました。ホームページなどは誰もが利用しやすいものにすることが求められます。

電子書籍導入については、コンテンツの少なさ、特に新刊の少なさが指摘されているところであり、導入のタイミングを見極める必要があります。

国会図書館デジタル化資料送信サービスは、中央図書館のみの利用であり、地域館での要望に応えられていません。

外部データベースの種類やアクセス数も十分ではありません。

#### カ. 職員の知識、技術の継承と能力の育成

図書館の職員は、正規職員である技術職員、事務職員と非常勤嘱託職員で構成されています。非常勤嘱託職員や人事異動がある事務職員には知識や技術にばらつきがあることから、その能力の向上を図り、知識とスキルを確実に継承して、これまでの図書館サービスを維持継続していける体制を作らなくてはなりません。また、20年以上技術職員が採用されてきませんでした。効果的な図書館運営を行うためには、図書館サービスの知識、技術だけでなく、図書館運営全体をコーディネートする能力を有し、それに加えて鎌倉のまちと図書館の資料と利用者をよく知る技術職員の採用と育成が必要です。

#### キ. 市民協働

年に一度のファンタスティック・ライブラリー（図書館まつり）をはじめとして、現在多くの市民団体との協働で多種の行事を行っています。また、近代史資料室ではボランティアの協力により、資料の収集・整理が進められています。

しかし、活動や行事の場が旧鎌倉地域（中央図書館）に偏りがちで、地域図書館と地域の市民団体との連携は十分ではありません。また協働相手が固定化しており、新しい団体、個人が参加しやすい体制を考える必要があります。

また、市民団体との協働は、結果的に市民や協力者の善意に頼る形になっており、今後も事業を持続していくための工夫が必要です。

#### ク. 近代史資料の活用

鎌倉の近代史に関する資料が散逸することを防止するため、近代史資料の収集・整理・保存・提供を行っています。収集・保存する資料は、図書資料だけでなく、古文書や古地図、写真等の文献資料もあり、一部ホームページで公開していますが、利用者等からこれらを利用したいという要望が出されています。しかし、現在整理・保存が追いつかず、収集した資料を提供できていないことから、近代史資料を提供できる体制を整える必要があります。

## 第4章 鎌倉市図書館の基本方針

第3次サービス計画では、前章で取り上げた現状と課題を踏まえ、「つながる ひろがる 100年図書館」の3点を新たな基本方針として、図書館サービスの一層の充実を目指します。

### 「つながる ひろがる、100年図書館」

#### 1 つながる図書館

知りたい情報・求める資料と利用者、子どもたちと読書をつなぎ、鎌倉の現在・過去・未来をつなぎます。さまざまな人々をつなぐ場となり、市民とともに歩む図書館を目指します。

- 図書館ネットワークの構築
- 利用者に応じた読書の支援
- 資料情報の収集と提供
- 課題解決支援
- 地域との連携
- 電子図書館
- バリアフリー
- ブランクエリア対策
- 多文化サービス
- まちの居場所

## 2 ひろがる図書館

市民参画・協働の図書館として、市民とともに図書館を盛り上げ、図書館での活動を通し、さまざまな世代が交流でき、市民が発信していけるよう取り組みます。

- 広報活動の充実
- 市民参画と協働
- 学習成果発表の機会の提供
- 関連機関との連携
- 文化事業・イベントの開催
- 図書館運営の情報公開

## 3 100 年図書館

全国的に貴重な鎌倉の歴史的遺産と文化を保存継承し、後世に伝えます。  
これまでの歩みを大切に、地域資料を通して歴史ある鎌倉の魅力を発信し、  
100 年先の未来にも誇れる図書館を目指します。

- 鎌倉らしいコンテンツの製作と発信
- サービスを支える職員の育成
- 資料保存
- 施設・設備の充実
- 危機管理体制の強化
- 安定した図書館運営